

# 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）復興支援活動報告書

被災支援ボランティア団体  
「おたがいさまプロジェクト」大竹修

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」の助成事業  
復興支援ボランティア・ツアーVol.14 「神戸から真備へ」が終了しましたので、ご報告致します。

記

活動日時	2019年9月22日（日）7時～19時
活動場所	岡山県倉敷市真備町
ボランティア数	17名（内初参加12人,学生11人）
活動内容	1.子ども支援 2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会）3.写真洗浄

## 1.子ども支援

場所・時間	①みその仮設住宅 ②市場仮設住宅
作業時間	1.5時間（10時30分～12時） 2時間（13時～15時）
ボランティア数	17名 17名
受益対象者数	18名 20名
作業内容	レクリエーション等
詳細	仮設住宅の集会所にて子供向けレクリエーションを行った。  <b>＜活動の成果＞</b> 1.ストレスを発散し、子供たちの不安や悲しみを取り除き、生きる強さに昇華させることができた。 2.子どもたちが地域住民と触れ合うことで社会性を伸ばすことが出来た。 3.ゲームやお菓子タイムの中でルールや片付けを行い、社会のルールや道徳心を育てる事が出来た。 4.日頃遊ぶ場所が少ない子どもたちのために楽しみを与えることが出来た。  (内容は子ども達の自主性に任せている)



(綿菓子をみんなで作るイベント)

詳細・情報共有等	<p><b>【社会（大人）を通して成長する場を】</b></p> <p>大人と一緒に楽しめるようなイベントを企画。子供達は親以外の大人と接することで社会性や道徳心を伸ばす事が出来る。地域活性にもつながる大事な活動なので、今後も積極的に行っていく。</p>	
----------	---	--

## 2.見守り訪問／サロン活動（足湯、お茶会）

場所・時間	①みその仮設住宅 ②市場仮設住宅	
作業時間・ボランティア数は1と同様		
受益対象者数	約50名	約40名
支援・協力団体	石橋様（みその仮設仲介、物資提供）チョコ様（現地広報等）	
作業内容	見守り活動、サロン活動（足湯・お茶会）	
詳細	<p><b>①見守り訪問活動</b></p> <p>仮設住宅全てに訪問。悩み、困りごと等の聞き込み調査を行った。</p> <p><b>&lt;活動の成果&gt;</b></p> <p>1.一人一人違う心の問題を傾聴する事で、悲しみや怒り、精神的安定や寂しさからの解放、孤独死や引きこもりなどの抑制活動を行った。</p> <p>2.困りごとや頼み事などを支援団体「災害支援ネットワークおかやま」「まびシェア」や倉敷市などに情報提供し、生活の現状や改善に役立てることが出来た。</p>   <p>(一軒ずつ訪問活動を行う)</p> <p>(小さな声も漏らさないよう活動する)</p>	
	<p><b>②サロン活動（足湯・お茶会）</b></p> <p>被災者のストレス発散や、コミュニティの場として足湯・お茶会を行った。</p> <p><b>&lt;活動の成果&gt;</b></p> <p>1.被災者同士の良好なコミュニティ形成の一助となった。</p> <p>2.足湯、お茶会を通じて楽しんでもらい、被災者の喜びや悲しみ、怒りに寄り添うことが出来た。</p> <p>3.子どももイベントを同箇所で行い、全世代が楽しみ、会話ができる場所を提供した。</p> <p>4.聞き取りした内容は全てHP等に掲載。他団体に報告するなどシェアを行なった。</p> 	

	<p><b>【子どもたちという地域の宝と一緒に生きていく。】</b></p> <p>同会場で子供イベントを行うことで、自然と地域の子どもたちと大人が交流出来るようになり、最終的に支援団体がいなくなった後でも、<b>全世代を含めたより良い地域コミュニティが出来るサポートが出来た。</b></p> 
--	--

## ----- 【情報共有】 -----

### 1. 市場仮設住宅（訪問回数13回）

- ① 「真備のだけのこは日本一だよ。お刺身にするのが一番」（ずっと無口だった男性に30分寄り添った後、お話をしてくれた）

### 2. みその仮設住宅（訪問回数2回）

- ① 「リフォームが終わりをむかえ、家財道具を全て揃えるのに疲れが溜まっている。」（60代男性）  
 ② 「集会所に行けない僕たちのために、家でお話をきいてくれて本当に感謝している」（足の悪い男性とその家族）」

### 全体として

- ① 台風が続くせいで、心の調子が悪い方が多かった（5件）

### 3.写真洗浄

場所	元田集会所
作業時間	約1.5時間（9時30分～11時）
ボランティア数	8名
受益対象者数	約20名
作業内容	写真洗浄
支援・協力団体	「真備写真洗浄@あらいぐま岡山」様（場所提供・作業指示）

## 詳細・情報共有等

### ※写真洗浄とは

自然災害で汚れた写真を1枚ずつ丁寧に汚れを落とすボランティア活動。泥で汚れた写真はバクテリアが周りから侵食して白くなっていく。侵食をとめるために水・エタノール水溶液で洗浄しなくてはいけない。

簡単な作業ではあるが、被災者の心に寄り添える大切な活動で、小学生や初心者には向いているボランティア。

### <活動の成果>

- 1.被災者の思い出を守り、生きる喜びを与えることができた。
- 2.バスを利用して大人数での効率の良い活動が出来た。
- 3.活動中や休憩時間などに、ボランティア同士の交流を通して、防災やボランティアの意義を感じてもらえた。

### 【現地のボランティアの方との交流】

作業時に同席した現地ボランティアの方に、当時の話や現在の状況などを説明していただく機会があり、初参加や学生たちにとって有意義な時間となった。これからも無機質な活動ではない心の通ったボランティアを目指したい。



## 【所感】

西日本豪雨から1年が経ち、先月と同じく真備支所前の石碑にて、黙祷から始める活動となりました。

活動の前日に台風が接近、今夏だけでも4回の台風が日本列島を通過するなど、改めて災害と向き合いながら生きていかなければいけないと感じております。今後も常に防災情報の発信を行いながら、団体のメインである慰問活動を続けていきたいと思います。



### <続けていくことの価値>

今回で14回目を迎える、被災者、地域住民、そして地域の支援団体の方と、良好な関係を築き上げることが出来ています。

台風のために前々日前に服部地区でイベントが出来なくなってしまった時、仮設住宅の方から受け入れの許可、支援団体の方から支援物資を頂き、当日はみその仮設住宅で十分な活動することができました。

この時に言われた「おたがいさまです」と言われたことがとても嬉しく、ずっと活動してきた事の意味を感じることができた回となりました。





### <子どもたちが成長していく喜び>

3回目の訪問となるみその仮設住宅で、前回同様に外で水風船をキャッチするイベントを行っていました。

いつもはボランティアの方から「片付けようね」と声をかけているのですが、今回は一人の少年が誰に言われることもなく風船の破片を片付けていました。

その姿にただひたすら愛おしい気持ちと、喜びに満たされる事が出来ました。

ただ活動するだけではなく、この少年のように心ある人達を一人でも増やし、これから世界を明るく照らす為にも、誠心誠意活動して参りたいと思います。

最後にこのような機会を頂けた中央共同募金会様、ご協力頂いたあらいぐま岡山様、まびHouse様、つむぎママ様、チョコ様、そしてボランティアの皆様に、心より感謝をお伝えしたいと思います。

本当に有難うございました。  
おたがいさまプロジェクト代表 大竹

#### 【今後の活動について】

- 10月13日・・・神戸で出来る復興支援  
(写真洗浄会)
- 10月25日・・・復興支援ボランティアツアーボル.15



### 【傾聴アンケート35件】

#### (みその仮設住宅:16件) -----

・子供たちの遊び場。  
・アーバン仕様の仮設住宅より  
木造の方が有難い。

堤防が高くなってしまったため、当り時間が短くなっています。  
70歳~80歳 女性 3人組  
家の写真(災害前)を見ると気持ちがこみ上がります  
70歳~80歳 女性

## 小学生の声

学校がいいのや  
あるけれど、学校に  
来てないから不思議だよ!

## 子供 女の子

みんなで遊び場がほしい

## &lt;懇願アンケート&gt; (みちの仮設)

- ① 年齢: 8~9歳 名前: めいちゃん 性別: 女性  
 内容: 川辺小学校の裏側にある公園で遊びたい。  
 (他の仮設の裏) 現在は木瓜のうらではいる。
- ② 年齢: 50~60代? 性別: 男性(息子) → 統合失調症あり。  
 70~80代? 性別: 女性(母)

③ 行政やボランティア団体に動かしてくれて色々支援してくれて  
 本当に助かっています。災害からの復旧もまた非常に支援してもらっています。  
 家の中にいて2~3日で本通り時もあるので今月は3回  
 例職(職業訓練)の中のストレス発散(7月3日の大運動会)  
 僕と母はタレントもあり遊び場がなかった。  
 土地の高さ1m(夜に浸水されない)ある。

この仮設を拠点で入れ替えて実約12年でいた。  
 (障がい者枠) 設備も整っていて狭い生活で2年。  
 (土地の高さ等)

7ニラの畑を手作り、快適な暮らしでした

④ 身体が悪いよってことでつぶれていたが逃げ出したい。  
 何でも自分でできたら、息子と一緒にいきたいと言った。  
 息子と一緒にいるのが好きです。

## ① みちの仮設住宅

## ② 小学校近くのもの

## ③ 魔法の手

以前は音楽室の前の空き地で遊び場があったが、仮設住宅になるとビルに隣りながら。

## 60代男性

今月中に家を建てる予定。  
 被災直後、すぐ入りたかった。1年少し経って

## (みちの仮設)

## ① 63歳 女性 (60代、男性)

2月からみちの仮設に来て、リストが熱だったので10月に仮設を出る。

仮設の中にも「みちの仮設」というものもあり、そこには定期的に行事があるし、支援物資も行き届かない場合もあり

普通の仮設との格差がある。

## ② 63歳 女性 (60代、女性) ↑奥さん

ここ2年前は一軒屋を借りていたが借主で少し住めづらかった。(他の家の方は荷物を置いていた)ここに来て、家族も明るくなっています。

自分たちのスペースを保つ。

## ③ 女性 60代 一人暮らし

スローライフで自転車で行く20分くらいかかるので少し不便だ。  
 たま木造ながらトイレは壊かたり寒がたりしたのでそれがと思う。

## 60代 男性

10月中に家の建設で家財道具等全て持ち去るのに疲れが留っている  
 収拾せずに水に漬けてしまって、写真等思い出の品がなくなってしまったのが、辛い

## 10.11歳 女の子 (のんちゃん)

小学校の裏の小さな公園に入り、昆虫採集

## 60~70歳 女性 (3人)

泥水が自家の二階まで来た。

## みちの仮設 30代 中性

## みちの小学校へつい

被災したくない子の間で差があるから

被災したくてバスで登校し、レインコート

徒步で登校する。その隣にバス停。

と被災していない子は汽車に乗る。

それを聞いた親は対応に困る、いふこと

おしゃべり。

## (市場仮設住宅：19件)

夏はあつて冬はさむぎる（仮設内）

しどうか音がとれり近所の仮設宅にひびくものには気にならずともか雨の日梅雨は所がかり。

ピカ等の聲器があれぱうわい

30前半 男の子の母の母

女性（30代）

子ども一緒に

市場仮設ではなくそこから30分くらいかなし仮設が軒高。

かなし仮設ではこうしたイベントが近く隣に住んでいる人た

がからだの状態

尾合さん

お兄ちゃんが入院している

1人で暮らしている

尾合さんは事故を起こす

車の修理に出している

ひたむきさん（50代）

UV工を習わせたりたりたり

近いところ（教室）でくらん室理だ

もしも子供と一緒に暮して来る

機会があると非常に喜んで

女性

夏はあくまで冬は寒い（仮設住宅）

生活音が聞こえる（　　）

ガードレールの所まで歩くが苦手などの具体的な話をして  
もう少し、夕暮学校は2階まで水が来て木造だったとき

つるぎママ様

僕たち少人数での移動での、真備神社、たけの食堂へ行きました。真備神社の上の左へ登り、そこから避難所とすぐ近く、またそこから見えた

3がードレールの所まで水が来られて、少子の2階付近でもまだいたことを聞きました。

そして、たけの二食堂の奥の方で、備品を集めており、自由に住民たちが、キレイで役に立つものもそこにはありました。ちょうど11月27日でした。

70歳男性

60歳で仕事をやめていますが、7歳になる3ヶ月前の冬の時期の雨のため、すごく不安だった。2階に逃げたのですが、どうしてひなん地区が水がかかるのかといふと、水がおぼつかない静かに階段に入り込んで来て、臭がくさい大丈夫かからなって感じです。

奥様

自宅に床ゆか事はうれしいが、仮設で仲良くなれた人と別れる事がつらい。  
後は、免子さんと鹿之助さん話を聞いて丁度よい。

いとうばん続

87才 男性

一人暮らしで自炊している

何でも自分でやれるので

困り事はない。

震災後奥様で仮設で暮らして

どちらいろか、引き取る事は出来なかつた

まみじうに立ち会はれていた。

50代 女性

新築した家のもうすぐ出来上がり

小曾根保育園に入っていますが、この

定年退職した夫との老後の不安を

言っていた。

市場仮設 70代 女性

足湯と抹茶食卓しかけてくれたのがとても  
嬉しかった

おばさん2人

同じ仮設に住んでいたながら初めて会ったという。  
(筋書き)

(やうさん?)  
解説曲がらないで毎朝歩いている。

「ハビ」のために鍵棒といいはよいのにはあ。とおしゃべり。  
どこか外に出る際にはいつもタクシー。

1人身であるため車、足がなくて

仮設住宅は狭くて1部屋、ベッドを置いてから理っぽい。

假設生活時のことを尋ねると新しい物が買えない、置けない。

住宅再建も工事が遅れている。

(前回、足場に参加して下さることがあるやうだ)

足湯があると聞いて、1人2台参加していと足を運んで下さった。

廊下際も足湯がほほほけて、とても満足気だった。

おばあさん同士で「名前の交換や前の家の場所など」と話したり、新居はコミュニティが生まれて現地を手がけている手だ。

最初は空口でお互い話をしない方で1人が、日常生活や物語や食べ物など色々な話題を広げ、印象も増えていました。  
80歳で1人暮らしでの�单独生活時代さんが来て下さい。  
冒頭や食事もぐっそりとつながって、自分自身のことは自分で24、4km離れた八戸-八戸へ。  
徒步で冒頭に行くこと。歩くのは体力は良く  
体調も悪くならないようにして下さい。

市場仮設 訪問 70代

今日は風邪せだから参加できなかつたが、おしゃべりしたが  
参加して下さった。(集合所へ行く時刻)

朝の朝ご飯を合わせたりと仲良くなつた。いい人  
のひとも良かった。

市場はとても付けてはやまつておらずに全く駄目にな  
失礼をされたりと落としておじこでした。たとおしゃべり。

市場仮設 78歳 女性

初回成りの参加。加え第一回自分の映像、2回目のひ  
まに参加しなくてはならず、「と思ふ」と思って参加したと。

おまかせみんなに喜んでから話してからしゃべり。

本当に参加したいと!! 息子さんの話で盛り上がりだ。

真面目で70歳でまだいいく、まさに良いのが一番で  
そういうのが魅力的だと感じました。

初回も普段で17歳で20歳の空間に耳を傾け  
集まることに参加で2回下さった。おまかせで6ヶ月後もおまかせです。

やはり、人と話す、コミュニケーションを取るこれが  
これだけで特に高齢の方々は積極的に顔を出したり  
笑ったりする人が多いですね。

## ① 市場仮設住宅

② 小さな子供をひきお母さん2人(被災者), 7023人, 仮設住宅への住む男性(50~60代), おばあさん

③ 「被災から1年間でフルアドリブが減り、もうすぐ假設へ遊び場所があたるのか」とおしゃべり。

住むのが海水(1階の天井)のアパートが落ち着いています。まだ少しは下りておられますが、1年経ててまだ下り  
→船主との話し合いで、1年でアパートの手配をおこなつた。(資金の問題もあり)

假設の場所で1年以上暮らすの人達(被災者)。元々アパートから移転してアパートへ入る人。

移転ひな友とかいう。おまかせで6ヶ月後、600世帯、600戸が假設へ入るのにまだ準備が進んでいないのに、それは苦痛だ。

被災時は流れはるものや震動のもの、窓ガラスの割れや落とし物、落とし物の中。

被災のときにどう行動を取った。

仮設住宅への住む男性(50~60代)は交通事故の心配をしないでいる。

## 【参加者からの感想 17 件（回収率 100%）】

20代 / 大学生（初参加）

写真洗浄。子供や孫、お孫、どちらかといふ意味がござります。

写真洗浄は私の家の間でいい。どちらかといふのです。写真の印出しは私が他の体験会で  
写真の裏に貼り付けておいたりするのであります。思へば以上に人気であります。初めてシカゴの体験会で  
子ども支援会は、子どもとお母さんと一緒に、水風船を遊び、と乗る。どちらかといふ不  
幸な方で皆が喜んでいます。市内体験会ではお茶会では、天保町の方と、お子さんとお母さ  
んが一緒に楽しんでいます。お母さんがお風船を吹きたり楽しんでいます。どちらかといふことであります。



20代 / 大学生（初参加）

今の時代、写真はケータイに重なっているものが多いからこそ、写真をと  
り大切にされる気持ちがわかりました。その大切さが写真を洗浄  
することがどこで、よかったです。子供たちとおあうけ会は  
あまりなく、失敗しないか、不安でした。とても楽しめられて、仲  
良くなれて自分もともためになりました。主婦の人たちの悩みも  
いろいろあることが知りました。

20代 / 大学生（初参加）

写真洗浄は思ったよりも難しく、時間がかかりました。1つ1つ手  
作業で行われて、手がもつて必要だと感じました。  
お茶会では、何人かの方とたくさんのお話をすると感じました。  
当時の話や今の自由など、笑顔で話していましたが、時折  
少し悲しげな顔をされたので、心の傷はなかなか治るものでは  
ないのだと思いました。今回活動に参画してさらにうつた活動の必要  
お説いや活動情報をメールにお送りしても宜しいでしょうか？（YES / NO）

20代 / 大学生



切り出し作業がとても難しかった。残りの写真  
の枚数は105枚あるとおしゃっていた。まだまだ遠い  
道のりだと感じた。訪問のときに、告知すると  
「渡山でいたから疲れ取ってから、もう一つ」とおしゃ  
ってくれた方がいらっしゃる。いや、2、とても楽しめたとしておひび  
嬉しかった！また、その方に会いました。

20代 / 大学生（初参加）

写真洗浄では、アバームから切り出しが汚れを落とす作業を  
しましたが、とても難しかったです。でも、この作業があることで  
笑顔になれる人がいるのだとと思うと、うとうと見入りました。  
子ども支援会では普段体を動かすことや、たまに遊びの  
時間でもおじょうかれました。子どもたちの樂いをした「笑顔を  
見ると手も樂しかったです。また参加したいと思いました。



## 10代/学生(初参加)



初めてボランティアに参加しましたが、皆さんが晴々とした笑顔でお話ししてて、私たちも笑顔で樂しかったから接するところが、良かったです。

## 40代/社会人

今日午後の写真洗浄がなくて残念だったが市場復設もあけたので5か所。復設外が人にまわってみたい復設の話を聞きながら話した。

## 40代/社会人(初参加)

足湯はハイツのイメージでいたが、市川に馴染む足湯を看到。まだここで活動していると思われる山の若いラスagnaの方たちで、場を盛り上げました。

## 20代/学生(初参加)

少し有意味な時間でした。  
普通の世間話から被災時や今と色々な内容の話を聞くことができました。  
後はさすがに元気で、しかもほほえんが、少しでも元気の源になりました、と思いました。

## 20代/学生(初参加)

足湯や遊びを通して色々な人から洪水がねた時の話を聞けたりしてとても良い経験になりました。足湯を通して高齢の方々にも気持ひがった、と言ってもういい、とても嬉しかった、少しでも力になれたのかなと思いました。

## 40代/社会人(初参加)

1年経っていてもまだまだ作業が残っていて、ついでにアーバンアートから写真を撮ってもらおうか結婚式などとしても大30分程度で、ついでに少しだけ写真撮影とも思いました。



10代/中学生(初参加)



④少ないかと思ひきや部屋中には大人の方、外には子どもたちと大反響だった。和の子どもと関わることが多いからこそに伝える時間も設けて頂き濃い午前中を過ごすことができた。

20代/大学生(初参加)

子どもたちの元気さがとても良くて、少し側で元気が出る程度だった。今日こそせり負けた午前回よりは良い勝負ができたと思う。女の子もとても元気で、みんなで楽しく笑い合えてよかったです。

